

らいぶスクエア

泥団子バトルで、土の性質に迫ろう

生活科
1年B組担任
上田 恵



1 身近なようで身近でなかった土

1年B組の子どもたちの遊びを見ていると、土遊びをする姿をほぼ見ないことに気がきました。土は、生活科では「だいすきななつ」の「みずやつちであそぼう」として1時間だけ扱われています。生活科の教科書を見ると、自然科学分野は虫や植物など生き物はたくさん登場しますが…。そこで、泥団子で土の性質に迫る授業を考えました。

2 場所によって土は違うんだ！

まず、校内2ヶ所を選んで、2時間ずつ土遊びをしました。1つめは、1C横の砂地の平らな場所。2つめは、築山二号という草や木が生えた斜面。



1Cの横は柔らかくてスコップで掘りやすかったよ。

築山二号は、斜めだから水が流れ易くて、川作るのが楽しかったよ。



1C横は、水にとけるのが遅かったけど、プリンやゼリー作り楽しかった。

築山二号は、スコップが刺さりにくかったな。じめっとしてた。



場所によって地形だけでなく土質も違う事に気が付いた子どもたちは、校内10ヶ所の土を集めてきて、虫メガネで観察を始めました。

3 泥団子バトルをしよう

これまでに泥団子を作ったことがない子が約半数。「どんな泥団子を作りたい？」と尋ねると「丸いの」「卵形の」「大きいの！」と声が挙がりました。きれいな丸い形にすることすら難しい子どもが多かったのです、次に「転がしても割れない」「壊れない」という声。転がす実験場はプレイランドの滑り台にしました。子どもたちの目が輝きました。

◆第1回 泥団子バトル ～壊れた後、涙が出てきました～ 強い泥団子作りの道のりは険しいのだ

「どこで作っても良いよ。」と言っても、全員、柔らかくて細工しやすい1C横の砂地で作りました。ほとんどの泥団子が滑り台で転がし始めると同時に木っ端みじんです。自信満々の顔が暗く沈んでいきます。集中できず、遊び始める子もいます。でも、大きなかけら2つに割れた友だちの泥団子には歓声が挙がりました。

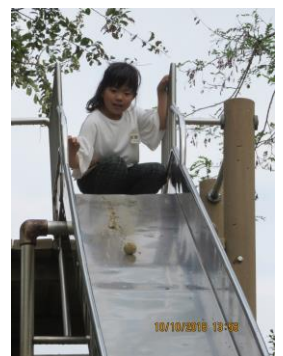
子どもたちが認めた優勝者は2人。1人は「かけらがとても大きく、2つにしか割れていなかった」のが優勝理由。2人目は「元の大きさが小さくて、元の大きさと変わっていない。」

◆第2～4回 泥団子バトル ～次はもっと大きくて割れないのにしたいです～

第1回は、10人参加できませんでした。教室に置いておく間に壊れてしまったり、泥団子そのものを作れなかったりした子が10人いたのです。しかし、2回目には4人になり、3回目4回目は全員参加でした。

バトルで大きなかけらが残った友だちに、休み時間などに自発的にコツを教えてもらい、試行錯誤していたのです。

第3回、とうとう滑り台を割れず転がりきる泥団子が4個もありました。大歓声です。



4 強い泥団子作りの戦いは続く

めいっばいの遊びが「土」への気付きを広げ、深めています。滑り台で転がす前に築山の斜面で試したり、いくつか作って予備実験したり、実験の仕方も工夫中。私は答えを急がず、子どもの気付きを支えられる仕掛けをこれからも考えます。